



# 大門小だより

3月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和2年2月26日  
横浜市立大門小学校



## 弥生 巣立ちのとき

校長 佐藤 峰子

日本では旧暦三月を「弥生」と呼び、現在でも新暦三月の別称として用いられています。「弥生」の由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月（きくさいやおひづき）」が詰まって「弥生」となったと言われています。他にも花月、花見月、夢見月、桜月等の別称があり、暖かく花咲く春がもうすぐ側に来ているという浮き立つ気持ちにさせてくれます。万物が成長し花咲く春「弥生」は、巣立ちのときでもあります。

令和2年、新しい年を迎えて子どもたちが登校してきたその日から、6年生の「卒業」が身近なものとなってきます。1月7日の朝会で、新年の挨拶の後に、卒業まで50日の登校であること、どのような姿で大門小学校を巣立って中学という新しいステージに向かっていくのか、6年生一人ひとりがしっかりと考え、日々の生活の中で、目指す姿を意識して過ごしてほしいと伝えました。そうはいっても、6年生の子どもたちにはピンとこないであろうことは、高学年担任をしていた経験から想像できます。職員にとって身近であっても、6年生にとってはまだまだ先のことなのです。卒業までの様々な活動を積み重ねていく中で、子どもたちは少しずつ「卒業」を意識し、準備をしていくのでしょう。

2月に、家庭科室を使って「卒業おめでとうバイキング給食」がありました。クラスごとに数名の職員と一緒に特別メニューの給食を楽しみました。飾りつけや紙製のランチョマットは、5年生の手作りです。毎年少し残る給食ですが、今年は完食が続き、子どもたちの旺盛な食欲に驚きましたが、嬉しい出来事でした。

1年生から5年生は、学校のリーダーとして一年間活躍してきた6年生に、ありがとうとおめでとうの気持ちを込めた活動に取り組みます。学年ごとにプレゼントを作り、それを5年生が作った「思い出ランドセル」に詰めて6年生に贈ります。併せて校舎内の卒業を祝う飾りも作ります。

3月19日（木）朝、最後の全校集会「卒業おめでとうパーティー」を開きます。会の終了後、6年生と5年生は、第46回卒業証書授与式に臨みます。この日、126名の6年生が大門小学校を巣立っていきます。

現在新型コロナウイルスによる感染拡大が懸念されており、連日の報道で、不安に思う人が増えているのではないかと想像されます。世界中で予防策がとられています。日本においても、それぞれの場所で様々な感染予防の取組を進めるようにという指示が出ています。本校では、25日付で保護者の皆様に「新型コロナウイルス感染症予防についてご家庭へのお願い」を出させていただいています。マスクが不足している現状を踏まえて、バンダナや大判のハンカチを使った簡単なマスクの作り方の紹介もしています。

今後、大勢の人が参加する集いを自粛する判断が増えてくると思われます。新型コロナウイルスによる感染が終息に向かい、年度末の様々な活動や式が滞りなく安心して行われるよう願うばかりです。

6年生の子どもたちが夢と希望をもって本校を巣立ち、それぞれの学年の子どもたちが進級するそのときまで、一日一日を大切に、子どもたちとともに過ごしていきたいと思えます。6年間見守っていただいた皆様、本当にありがとうございました。本校の子どもたちや卒業生を、これからも見守っていただければ幸いです。

